

質疑応答(要旨)

※いずれも議長である山田浩太代表取締役社長より回答

Q1	現在の株価について、考えを伺いたい。
A1	<p>私をはじめ経営層は現状の株価に満足しているわけではない。 当社は適正な株価を測る指標としてPBRを重視しており、PBR1倍を最低限達成すべきラインであると認識している。</p> <p>既存事業の収益力向上、また、リチウムイオン電池(LiB)再生事業の収益化により、当社業績を向上させることがPBRの向上につながるものと考えており、今後も全力で取り組んでいく。</p> <p>株価下落の要因のひとつとして、IR情報の発信が不足していた部分があると分析しており、現状以上に投資家の皆様に当社を認知していただくために、投資判断の判断材料となるIR情報発信に努める。</p>
Q2	LiBのブラックマスからレアメタルを回収する技術について、他社が特許を取得しているが、当社がその特許に抵触することはないのか。
A2	抵触することはない。
Q3	特許の取得には一定の費用がかかると思うが、当社は今後も特許取得を継続していくのか。
A3	当社が開発した当社の競争力に直結するものであると考えており、知的財産の保護のために国内外で多数の特許を申請し、権利化を進めている。今後も技術保護のために特許取得を継続する。
Q4	LiB再生事業の資金調達として、経済産業省、福島県から補助金を採択されているが、それぞれの補助金受領時期について教えてほしい。
A4	福島県からの補助金については、2024年9月期に約243百万円を計上している。経済産業省からの補助金については、2027年頃に約1,800百万円を計上予定である。
Q5	LiB再生事業について、2026年にいわき工場の試験稼働が開始となり、認証用サンプルを生産することのだが、生産する認証用サンプルは有償での販売となるのか。
A5	提携先との契約内容に関わるため回答を差し控える。

Q6	LiB再生事業の生産設備の減価償却の開始時期及び耐用年数について教えてほしい。
A6	試験稼働期間の減価償却については、設備使用の目的が研究開発であるか、量産目的であるかによって償却開始時期が異なると認識しており、現時点では回答を差し控える。耐用年数は7年を想定している。
Q7	取締役選任の議案について、取締役ごとの賛成の割合を教えてほしい。
A7	臨時報告書に記載し公開するので、臨時報告書にてご確認下さい。

(ご留意事項)

この資料は、弊社株主総会にご出席できなかった方のためのご参考として掲載しているものであり、株主総会でお話した内容をそのまま文章に起こしたものではありませんことをご了承ください。